

令和6年度大島商船高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検評価（リテラシーレベル）

評価日時：2025年9月25日 会議名称：自己点検・評価委員会 開催場所：大島商船高等専門学校

参加者：学校長，副校長（総務主事，教務主事，学生主事，寮務主事），専攻科長，各科の学科長，事務部長他（自己点検・評価委員会委員）

目的：令和6年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

認定制度（リテラシーレベル）の審査項目	モデルカリキュラム	内部評価	評価理由
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命，Society 5.0，データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり，それが自らの生活と密接に結びついている	導入 1-1.社会で起きている変化 1-6.データ・AI活用の最新動向	A	各科の情報リテラシー科目でデータ・AI活用の最新動向を学ぶことができた
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって，日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	導入 1-2.社会で活用されているデータ 1-3.データ・AIの活用領域	A	各科の情報リテラシー科目でデータ・AIの活用領域について学ぶことができた
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され，様々な適用領域（流通，製造，金融，サービス，インフラ，公共，ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	導入 1-4.データ・AI活用のための技術 1-5.データ・AI活用の現場	A	各科の情報リテラシー科目でデータ利活用の事例が紹介され，理解を深めることができた
（4）活用に当たっての様々な留意事項（ELSI，個人情報，データ倫理，AI社会原則等）を考慮し，情報セキュリティや情報漏洩等，データを守る上での留意事項への理解をする	心得 3-1.データ・AIを扱う上での留意事項 3-2.データを扱う	A	各科の情報リテラシー科目で情報セキュリティなどに関する理解を深めることができた
（5）実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など，社会での実例を題材として，「データを読む，説明する，扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	基礎 2-1.データを読む 2-2.データを扱う 2-3.データを説明する	A	各科の実験実習において，実データを用いた課題に取り組み，「データを読む，説明する，扱う」ことに取り組むことができた

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが，達成に向けての対応策が立案され，対応に着手している。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに，達成に向けた対応策が立案されていない。